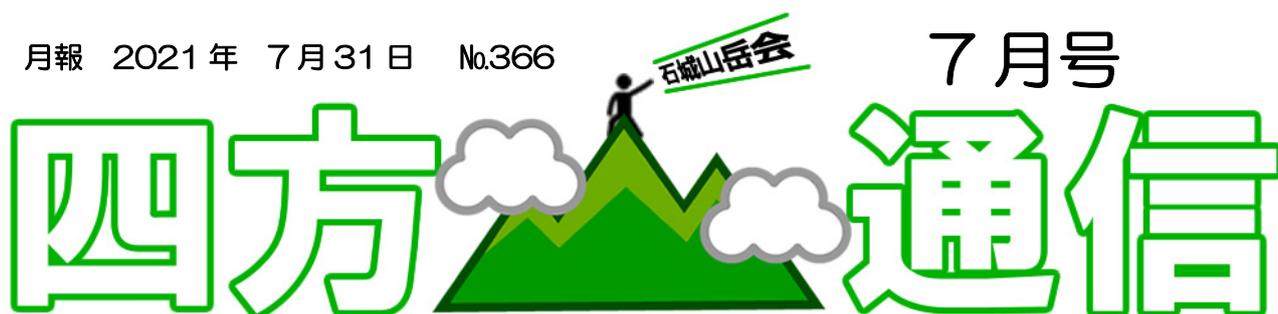


石城山岳会



四方通信

石城山岳会事務局編集

会津駒ヶ岳 (2132m)

田代山 (1926m) ・ 帝釈山 (2060m)

山行報告 以東岳 1,772m

山行報告 摩耶山 1,020m

国見山 (くにみやま) 563m (南相馬市)

燧ヶ岳・尾瀬沼周遊 (7月登山教室)

尾瀬ヶ原 (燧裏林道) ・ 尾瀬沼 (南岸)

7月月例山行 神室山・小又山・火打岳

大朝日岳 (1871m) 古寺鉱泉コース

日本一の虎の山【虎毛山】 1433m

会津駒ヶ岳（2132m）

2021年6月26日（日） 菊地・柏村・太・山縣・菅野

3人の6月誕生会と、うち2人の還暦祝いを兼ねた山行旅、初日に会津駒ヶ岳へ登った。

午前4時半頃に水石トンネル駐車場を出発。東北道白河ICから甲子峠を越え、桧枝岐村の滝沢登山口に到着したのが7時半過ぎ。登山口の階段を上って登山開始。

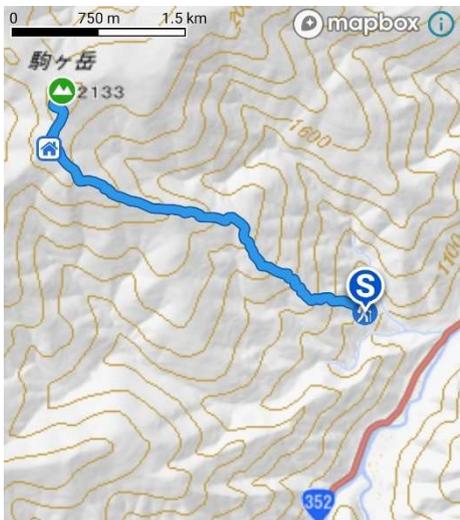
営林署看板を過ぎ、水場入口までの急登で高度を稼ぐ。晴天ではないが、湿度もそれなりに高く暑い。植生が変わり、オオシラビソが見られるようになると、木柵に砂利の階段箇所が多くなる。小屋手前の池塘の付近まで、雪はほとんど見られなかった。ベンチのある木製デッキで一休みすると、涼しい風が心地良い。木道を小屋前まで進むと、山頂直下まで雪が続いていた。小屋でトイレ、買い物した後に、ザックをデポして山頂を往復。燧ヶ岳など少し離れた山々も曇天にガス気味で、遠くの展望はいまひとつ。全員無事に登頂できたので、達成感を胸に下山を開始。滝沢登山口の階段を下りたとき、雨が強く降り出した。装備をしまつて、予約した麓の民宿に向かう。

民宿は温泉付きで、夕食の山菜料理もなかなかだった。食後に部屋で誕生会など行い、早めの就寝で翌日の鋭気を養った。

文責：太

タイム

7：50 滝沢登山口→11：30 駒の小屋→11：40 会津駒ヶ岳 11：50→12：10 駒の小屋
→15：05 滝沢登山口



田代山（1926m）・帝釈山（2060m）

2021年6月27日（日）

菊地・柏村・太・山縣・菅野

誕生会と還暦祝いを兼ねた山行旅、2日目は、猿倉登山口から田代山を経て、帝釈山をピストン。桜枝岐村の民宿を出発、国道352号から湯ノ花温泉を通過して、猿倉登山口に到着したのが7時半過ぎ。登山口公衆トイレに寄ってから奥まで行くと、ほぼ満車だったが、何とか駐車できた。

準備を整えて登り始めると、さっそく小田代まで急登。小田代の湿原ではワタスゲが咲いていた。小田代からの急登で田代湿原。湿原にはワタスゲのほか様々な植物。チングルマは終わりを迎えていた。湿原の木道を左回りに進むと、木賊温泉分岐に、田代山山頂の案内版が立つ。その前で他のハイカーにグループ写真を撮ってもらい、避難小屋（弘法大師堂）を目指す。弘法大師堂の前には清潔なチップ制バイオトイレ棟とデッキがあり、ベンチも設置。ここで休憩後、帝釈山を目指す

県境尾根に沿った道を進み、コルを3つ過ぎて最後の登りでは、ちょっとした岩を2回ほど越える。その先が帝釈山の山頂。山頂標柱のほか、二等三角点「帝釈山」（2059.91m）の標石がある。全周囲展望に近い場所なのだが、遠くの峰々はガスがかかっていた。

グループ写真を撮ってもらった後は、折り返し、途中の弘法大師堂で昼食を取り、下山した。

文責：太

タイム

8：10 猿倉登山口→8：25 小田代→10：05 田代山→10：45 弘法大師堂（田代山避難小屋）
→11：50 帝釈山→13：00 弘法大師堂（田代山避難小屋）→14：05 小田代→→14：55 猿倉登山口



山行報告 以東岳 1,772m

2021年6月28日(月)～30日(水)

秋葉信夫

以東岳は朝日連峰の北端に位置し連峰縦走起点・終点の山。20年以上前になるが、大鳥池から大朝日岳まで縦走したことがある。その光景・稜線に広がるお花畑をもう一度見てみたいと思い出かけた。28日午後自宅を出発し、泡滝登山口 18:30 着、車中泊をする。

29日 登山口から七ツ滝沢吊橋までは沢沿いの水平道。ヤマアジサイ、キバナニガナ、シロバナニガナ、ミズキなどを眺めながら進む。



七ツ滝沢から七曲りと言われるブナ林の急

登を登りきると幻の巨大魚「タキタロウ伝説」のある大鳥池。池畔からは目的地の以東小屋を望むことができる。



東沢までは池の水際に行く。東沢から急登になるが登るに従い展望も広がる。大葉黄スミレ、ツクバネウツギ等が見られる。

森林限界を過ぎるとヒメサユリ、ミツガシワ、オノエラン、ヨツバシオガマ、ウスユキソウ等が出てくる。頂上近くになるとガスがかかってきた。昼には小屋に着いたが、水場の水はまだ出ていないので雪渓からスコップで雪を掘り、ゴミ袋に入れて、それを少しずつコップとコンロで溶かし、水を作る。

14:00頃大朝日岳から縦走してきた夫婦がびしょ濡れで到着した。

夕方には雨も上がり日本海に沈む夕日を眺められる幸せなひと時であった。

30日 平成29年に新築された小屋は気持ちが良いで一晩を過ごすことができた。オツボ峰周りで帰ることとする。

雨は降っていないが、葉露に濡れるのでカッパを着て出発する。月山、鳥海山、大朝日岳等が一望できる絶景。



稜線はヒメサユリを先頭にミヤマダイコンソウ、アカモノ、アオノツガザクラ、チングガザクラ、

ルマ、コバイケイソウ、アオノツリュウキンカ等一面のお花畑。

天気も良くなってきたので楽しみながらノンビリと下る。

コースタイム 行き 泡滝ダム5:00→冷沢吊橋 6:15→七ツ滝沢吊橋 6:55→大鳥小屋 8:15~30→東沢 9:10→以東小屋 12:00

帰り 以東小屋 5:00→オツボ峰 6:15→三角峰 7:00→大鳥小屋 8:30~50→七ツ滝沢吊橋 10:00→冷沢吊橋 10:30~40→泡滝ダム 11:45 (文責:秋葉信夫)



山行報告 摩耶山 1,020m

2021年7月1日(木) 秋葉信夫

前日に関川地区にあるしな織りセンターを見学、セト橋登山口で車中泊をする。

スギ林に入り、アルミ梯子の橋を対岸に渡り沢沿いを辿ると小浜の茶屋跡、クセ穴コ

ースを分

ける。

間も

なく、本

日の核心

部「弁財

天夫婦滝

」が見事な

姿を現す。



垂直な梯子を慎重に登り、急な尾根を忠実に辿ると一等三角点の頂上。

昨日歩いた以東岳や朝日連峰、月山、鳥海山、日本海に浮かぶ佐渡島、粟島、飛島と素晴らしい展望を楽しんでいると、お腹の具合が悪くなった。



奥の院、六地藏、避難小屋

を經由クセ穴コースを登山口に戻るも、この間苦痛に耐えながらの下山となったのでした。

コースタイム 行き セト橋登山口 5: → 小浜の茶屋跡 5:25 → 弁財天滝 5:30 → 七つ滝分岐 6:05 → 頂上 7:15~30 → 奥の院 7:35 → 六地藏 7:45 → 避難小屋 8:00~8:15 → 分岐 8:25 → 小浜の茶屋跡 9:10 → セト橋登山口 9:35

(文責: 秋葉信夫)



国見山（くにみやま）563m （南相馬市）

2021年7月6日(火)

下山田、秋葉、山中、栗崎（透・容子）

久しぶりの山頂制服！たかが、5030，されど530。ここ何回かの山行で山頂まで行けば仕舞いだったが、荷物を軽くし先頭になり自分のペースで歩くことができ立つことが出来た。



駐車場がなく、
高の倉ダム入口で
焚火を囲んで
BBQ。(左)

国見山入口は階
段で始まった。(右
写真)



(左写真) 沢
を登っていく
と分岐があり
佐藤さんの案
内板がたって
いた。

このよう
な
東屋が山頂ま
で2棟建って
いた。





ここから、急登コース



(500m)とゆるやかコース(1000m)。どちらを行こうか。勿論〇〇でしょう。山頂近く、酒臭い!!何と昨夜の酒が汗とともに出てきた!誰だ?写真も撮らず、まったりとした話に花が咲く。



ようやく酒も抜け、元気にパチリ。
見渡せば南相馬市のが青空の下、眼下に飛び込んできた。

帰路は南西に下り、ベンチのある小ピークから下り道のとっつきが不鮮明だったが鳥居と祠があり、(山神と鳥居の文字は読めたが、祠の文字は読めなかった。)そこから先ほどの地藏平までゆるやかコースを歩く。

ここで、少し下の尾根コースに道を取り、舗装された林道へと出た。

林道を少し歩くとトイレに出た。カギは開いているが水は出なかった。ここから397mのピークに立つ展望東屋だ。ここは山頂より展望が良い。少し霞が掛かっているが、太平洋の沖合に金華山らしきものも見える。ただし、東屋の奥の板や欄干は今にも崩れそう。高所恐怖症の人は写真に入れなかった。





ここから急で、木の間の土が削り取られて歩きづらい階段をおり、佐藤さんの分岐に出、そのまま沢を下り登山口についた。

下山後、みんなが「腹減った」と同調、目に入った中華店へと飛び込んだ。全員が冷やし中華、とそれぞれ、ピータン、餃子、



キュウリとニンニク和えとお通しのザーサイをつまみ、

1人は生ビールを一気飲み足らずに青島ビールを頼みさみしいのか、一人で飲むのは気が引けたのか容子さんと美味しそうに飲んでた。



コースタイム：

7月5日 四倉道の駅手前
駐車場 15:30—高の倉ダム
入口（国見山登山口）泊

7月6日 起床6:00—
出発6:29—沢と尾根コース
分岐（佐藤さんのヘルメット
分岐）(7:07 朝食～7:27)
—地藏平（急登とゆるやかコ
ース分岐）7:56—山頂8:
18～9:03—山神9:13—
地藏平(分岐)—舗装林道 9:
43—トイレ 9:49—東屋展
望台 9:53～10:12—登山
口下山 10:53

〔報告者：下山田〕

〔写真提供：山中〕

燧ヶ岳・尾瀬沼周遊（7月登山教室）

2021年7月17日（土）～18日（日）

参加者：教室生8名 会員13名

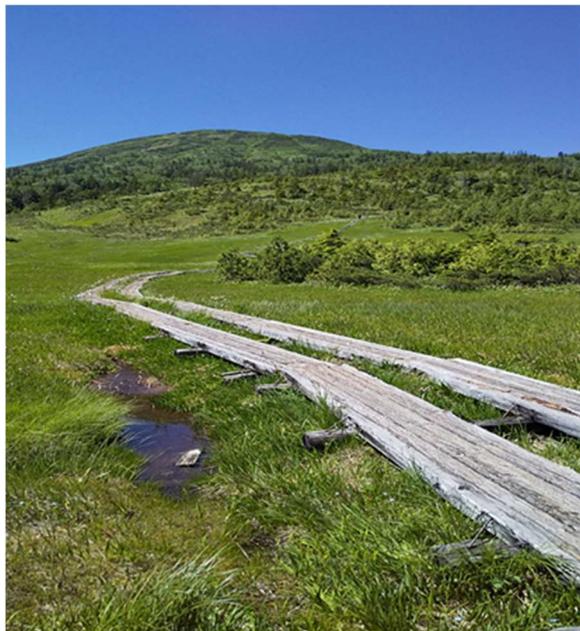
報告者：西 重

【1日目：燧ヶ岳】

平年より8日早い梅雨明けとなり、尾瀬御池の天気も快晴!! 出発前からテンションも上がっている。梅雨明けの晴天とニッコウキスゲに誘われ駐車場もすでに満杯に近い状態だ。

7:55 御池登山口より出発、ブナ林の木道を足取り軽く歩いているとすぐに急登の始まりである。あっという間に汗が噴き出て、徐々に皆さんの口数も少なくなっていった。1時間ほどで最初の湿原「広沢田代」に到着。ワタスゲの群生を目の前にして呼吸も落ち着き、湿原を吹く微風が何とも心地よい。

さらに次の急登をゆっくりと歩を進めると眼下に「熊沢田代」の湿原、池塘、真ん中に木道が通り、その先には燧の姿が青空とのコントラストに映えて実に美しい光景だ。湿原にはワタスゲはもちろんタテヤマリンドウ、ニガナ、サワラン等々の花が咲き、池塘の周辺にはヒツジグサや赤っぽいモウセンゴケが群生している。そして、新潟方面を見ると、平ヶ岳、越後駒ヶ岳等の雄姿が目の前である。こうした光景を見ながらの小休止、山中さんのシャッターを切る回数も増えてきた。



いよいよ俎岩を目指しての急登に呼吸がさらに荒くなり、雪渓を恐る恐るキックステップで通過し、小さく映る御池駐車場と目の前の会津駒ヶ岳を横に見ながら最後の岩山を登りきると、トンボの大群が出迎えてくれた。そこには向いに柴安峯の頂上、眼下の左に尾瀬沼、右には尾瀬ヶ原、先には至仏山、そして男体山・日光白根山・女峰山等の日光連山をはじめ360度の大パノラマが広がり、疲れが一気に吹き飛び、つらい思いで登ってきた最大のご褒美である。この光景をおかずに食べる昼食もおいしかった。

みんなで記念撮影をした後、柴安峯へは約30分、途中で秋葉校長の「ハクサンシャクナゲ」と「アツマシャクナゲ」の見分け方を教わりながら歩いた。柴安峯の頂上でもトンボの大群の中、思い思いの撮影と集

合写真を撮り、見晴の山小屋を目指し、見晴新道を下山開始。

最初のうちは周りの景色を見ながら慎重に急登を下って行ったが、林の中に入ると泥んこ道と竹笹の刈込に足を取られる連続で、疲れもあり軽快に足が進まない。登山後の冷えた生ビールを頭に描きながら歩くとようやく木道となり、見晴分岐を過ぎ桧枝岐小屋に到着した。

夕食前に燧裏林道を歩いたグループも加わり反省会の開始。テント場の見学などもしていた中、秋葉校長は急ピッチで飲んだせいか足元がおぼつかなくなり、強制退去でテントへ。残りの面々が夕食後も反省会は続いた。

【2日目：尾瀬沼・大江湿原】

今日も朝から快晴で、朝食前に尾瀬ヶ原の朝霧の中を散策したメンバーが多かった。

7：00 小屋前でオーナーの「ひげくま」さんとの記念撮影を済ませ出発。朝のすがすがしい空気の林道を2時間ほど歩き沼尻休憩所に到着し、ここから沼南側と北側周りの組に分かれて歩いた。今日も日差しは強かったが、比較的日陰の場所を歩いていたので、まだ体へのダメージは少ない。

三平下に着き大休憩。暑さと景観の良さに我慢できず、缶ビールを一杯！至福のひと時である。菊地さんが食べていた売店の黄色いカレーも一口いただき、これまたスパイスが効いていて美味！

その後、木道を歩くと昨日登った燧ヶ岳の撮影ポイントであったが、残念ながら風があり「逆さ燧」は綺麗に映らなかった。尾瀬沼ビジターセンターで北側を周ったチームと合流し、昼食後に大江湿原から沼山峠を目指し出発。湿原ではニッコウキスゲの大群生に会えるかと期待したが、木道周辺には比較的咲いていたが、その他はあまり目立たない。これもシカによる食害の影響なのか・・・。

湿原をゆっくり歩き、最後の木道を登っているとさすがに疲れがピークに近かったが、今回のリーダーとなっている手前、弱音は吐けず、何とか沼山峠に辿り着いた。全員が無事到着し、シャトルバスで御池駐車場に戻り、13：30現地解散となった。

登山教室では珍しく2日間とも最高の登山日和となり、東北最高峰：燧ヶ岳での絶景を堪能できた。また、教室では最初の小屋宿泊を経験し、山岳会の皆さんとの交流も深まり、充実した山行であった。下山田会長と秋葉校長が「燧ヶ岳に登れば、どこの山でも大丈夫だから。」との言葉を胸に、個人的に次はどこの山へ登ろうかなとの思いをさせ、いわきへの帰路に就いた。

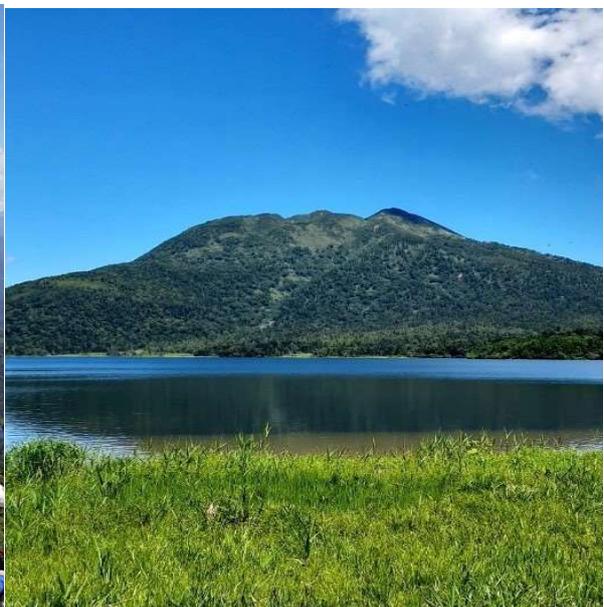
<コースタイム>

【1日目】

7：55御池駐車場 — 9：00広沢田代 — 10：00熊沢田代 — 11：00
俎ヶ岳（昼食） — 12：40柴安ヶ岳 13：00 — 16：10桧枝岐小屋

【2日目】

7：00桧枝岐小屋 — 9：00沼尻休憩所 — 10：00三平下（大休憩） —
10：40尾瀬沼ビジターセンター（昼食） 11：20 — 12：20沼山峠休憩所
（シャトルバス） ～ 13：20御池駐車場





尾瀬ヶ原（燧裏林道）・尾瀬沼（南岸）

2021年7月17・18日（土・日）

蛭田一、下山田、赤塚夫、尾形夫妻、太、山縣、長谷川、菊地

登山教室の尾瀬山行では、初日に燧ヶ岳に登ったチームとは別に、燧裏林道を通ったチームもある。以下、その行程を記載する。

燧裏林道チームは、御池の分岐で燧ヶ岳チームと別れ、鹿防護ゲートをくぐり、御池田代、姫田代、上田代などの湿原群を抜ける。各湿原とも、植物群落の開花時期のはざままで緑の草原状態。林道は、湿原が多いが、沢を越えるなど、アップダウンもそれなりにある。

うさぎ田代に下る手前の分岐で、下山田、長谷川の2名が段吉新道で温泉小屋方面に直行。他の者は三条の滝展望台へと向かう。滝は水量が多く、眼前を轟々の音響で流れ落ちる様は雄大。

三条の滝から急登を登り返し、平滑ノ滝展望台に向かう。こちらは、岩上から覗き込むと涼しげな音をたてて滑り落ちる流れが見える。昼食を兼ねた休憩を取って温泉小屋方面に向かう。

別れた2名と合流し、ビールなどでカフェ休憩。快晴の下、デッキのパラソルはありがたい。温泉小屋の先の分岐で、赤塚夫、太、山縣の3名が東電小屋に立ち寄りこととなり、他の者は直進して見晴へ山小屋へと向かう。なお、3名は東電小屋からヨッピー吊橋を渡り、竜宮を經由して見晴に到着。

夕方、燧ヶ岳チームと合流し、以降の山行2日目は、ほぼ皆で同じ行動となった。

文責：太

タイム

【初日】

7：55 尾瀬御池→8：40 上田代→11：30 三条ノ滝展望台→12：45 平滑ノ滝展望台
→13：30 元湯山荘・温泉小屋→14：25 東電小屋→15：15 竜宮→15：35 見晴（桧枝岐小屋など泊）

【2日目】

7：00 見晴→9：00 沼尻研究所→10：05 尾瀬沼山荘→10：50 尾瀬沼ビジターセンター
→11：40 平野家の墓→12：45 沼山峠休憩所



三条の滝、ヨッピー吊橋、東電小屋分岐から見た至仏山



7月月例山行 神室山・小又山・火打岳

2021年7月21日(水)～22日(木)

参加者：下山田、秋葉、根本、渡辺、栗崎(透)、栗崎(容)、甲高、山中

1日目、すでに1台の先客の車が止めてある有屋登山口から登り始めました。天候は晴れ、木漏れ日の沢沿いの幅広い登山道を歩きます。カツラの大木があるゆるやかな山道になっています。三ヶ所の沢股を経てからは急坂になります。はじめはつづら折りの登山道になっていました。この頃から雲行きが怪しくなってきて遠くでは雷が鳴っています。避難小屋まではまだ1時間半以上の距離が残っています。案の定、雨が降り出しました。木立の中の雨のためザックカバーのみで雨具を付けずに歩きましたが、結局、雨脚が強くなり雨具を装着し歩くも様子見のため途中小休止となりました。しばらくすると雨もあがったので登山再開しました。



八幡神まで登ると稜線になり、国定公園のレリーフ、その裏には戦時中出征した子供の無事を祈ったと言われる祠がありました。ヤセ尾根を歩いていくと神室山(1365m)山頂に到着しました。この日は山頂西側の神室山避難小屋に泊まりました。小屋はきれいでコンロ・鍋・マット等が完備されており、トイレもバイオトイレで匂いがありません。鍋をメインに各自が持ちよったつまみで酒宴になりました。



2日目、起きて早々に身支度をして出発しました。前日の雨で濡れた靴はあまり乾いていません。この日は火打岳まで縦走します。神室山山頂では鳥海山・栗駒山などが望めました。ここからは稜線歩きになります。最初のピーク天狗森からは神室山、小又山が望めます。天候は晴れて日差しがきつく体力が消耗し易いので水分補給は欠かせません。次のピーク小又山は縦走の最高峰（1366.5m）になります。



ここからさらに南東側が切れ落ちたアップダウン連続のヤセ尾根歩きが続きます。1.5L 用意した水が無くなってしまい火打岳手前で水場に水汲みに行かなければならなくなりました。ここで水汲み以外の人は火打岳まで先行です。水場までは急な坂を下ります。汲んでからの登りもきつかった！ここでは30分以上の時間ロスです。火打岳まではアップダウンの登りの連続です。先行に1時間遅れて火打岳(1237.8)山頂に到着しました。山頂はガスっていて眺望はありませんでした。ここから火打新道登山口まで下りが続きます。歩きが遅いため先行者との距離がひらいてしまい残ったメンバーのフォローをいただきながらの下山になりました。最後の急坂の頃には日も暮れてしまいヘッドライトをつけました。ようやく登山口の吊り橋に到着しました。長かったー！ヘトヘトになりました！甲高さん、渡辺さん、容子さんありがとうございました m(_ _)m



この日は銀次郎小屋で宿泊です。小屋に着くとビールでの盛大な出迎えを受けました。サポート隊が用意した夕食をいただき、この日も当然酒宴になりました。

タイム

1 日目：有屋登山口 9：40→八幡神 15：10→神室山 16：05→神室山避難小屋 16：25
2 日目：神室山 5：30→小又山 9：55→火打岳 15：00→火打新道登山口 19：15

(文責：山中)

大朝日岳（1871m）古寺鉱泉コース

2021年7月22・23日（木・金）

西・菊地・山縣・太

古寺案内センターに前泊、古寺山、小朝日岳を経て大朝日岳に登り、山頂避難小屋1泊。

前日14時に市内出発、月山ICで山形道を下り、17時前「大江町朝日連峰古寺案内センター」へ到着。同センターは、登山口駐車場隣接の、まだ新しい宿泊施設。和室・洋室の宿泊室に食堂、シャワー室、ウォシュレット便座など快適設備あり。料理は山菜中心だが、ピザも注文できる洒落た味自慢の宿とのこと。使われている食器も趣きがあった。長距離移動の疲れを癒し、翌日に備える。

登山初日は、宿の美味しい朝食を取ってから行動開始。登山口駐車場前の川に沿って進み、少し先で橋を渡ると古寺鉱泉の旧「朝陽館」建物があり、その少し先に尾根へ登る道がある。尾根道は、クサリ場などないが、長く急登もあって、夏の暑さは非常に堪えた。途中の一瓶清水、三沢清水で水を補給。

古寺山山頂に立つと、小朝日岳が目の前にそびえ、雪渓が残る大朝日岳、西朝日岳などの展望が望める。実は、古寺山山頂の三角点が点名「小朝日」（1501.07m）で、小朝日岳の山頂標石は（1647m）は凶根点だった。初めて朝日連峰に登った2名だけ小朝日岳に登り、残りメンバーは峰を巻く。巻き道は少し長めでアップダウンもそれなりにあり、前泊した宿の主人の話では、クマが出やすいとのこと。

コース最後の水場手前でメンバーは合流し、銀玉水の美味しい水を補給。急登すると、朝日嶽神社奥宮。避難小屋はその先だ。小屋は大賑わいで、小屋番に案内された場所はフロアではなく、2階ロフトだった。場所を詰めてもらい、2名だけはフロアに寝られたが、最終的には3階小屋裏まで使う混雑ぶり。荷を解いてから、ほぼ手ぶらで大朝日岳の山頂を往復。山頂は晴れており、連峰の稜線は見る事ができたが、遠くの山々はガス気味だった。

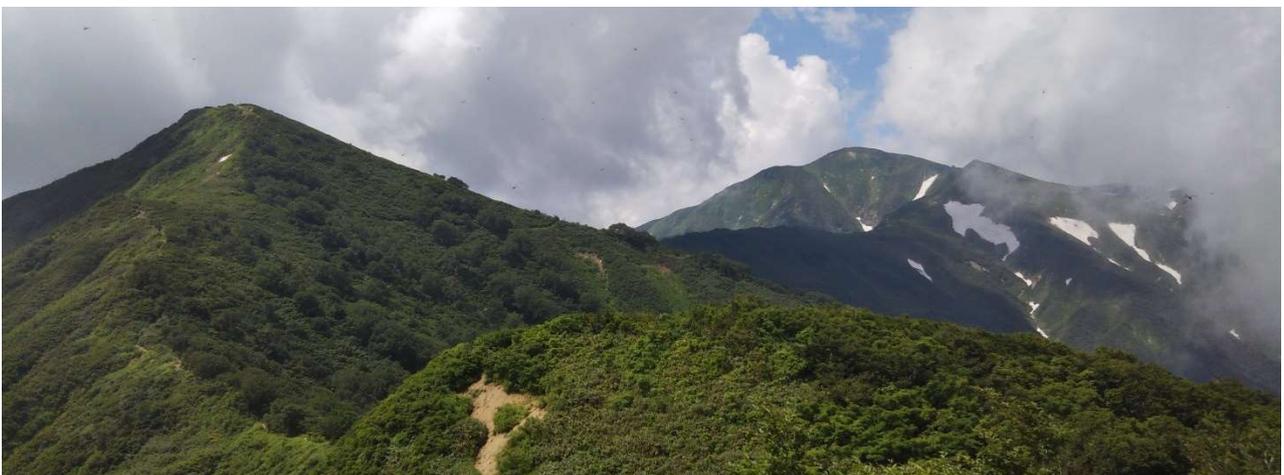
避難小屋泊の翌日は、早めの下山を心がけ、小朝日岳を巻いて午前中には古寺案内センターに戻った。

文責：太

タイム

【初日】7：00 登山口→10：20 古寺山→11：30 小朝日岳→14：00 大朝日岳避難小屋・山頂

【2日目】5：40 大朝日岳避難小屋→8：10 古寺山→10：50 登山口





日本一の虎の山【虎毛山】 1433m

2021年7月23日（金）～24日（土）

参加者： 渡辺・秋葉・甲高・小林・根本

国道108号線虎毛山入口分岐から5分ほど進むと6、7台止められる駐車場が有り本日合流する小林さんが先着していました、残り4名は前日までの山行で体調不良のため麓散策となりました。林道工事のため林道終点まで歩きそこから所々崩壊している沢沿いの道を進むと左岸から右岸への渡渉地点となります、ここが最後の水場となるので給水をしていよいよ九十九折りの登りとなります、ブナやミズナラの混生林を登りますが今日は沢からの涼しい風にスムーズに歩が進みます、大きな2本の夫婦檜近くでヒラタケ（焼きそばの具材となりました）を収穫しサラサドウダンやヒノキの原生林を進むと1234mの高松岳分岐に到着です。

分岐を右に進み前が開けた所からドーム型をした頂上が見えました、最後の登りは洗掘された細い登山道を30分ほどで山小屋に到着です。早めに到着したので頂上を経由して高層湿原の散策に、木道が敷かれた湿原には幾つかの池塘が点在しモウセンゴケ・キンコウカ・イワイチョウ等が咲いていました。池塘の水を汲み浄水器の性能をチェックしましたが濁りはとれません鍋で3分間位煮沸させても黄色く濁った色は残ったまま、匂いは無いので3人はコーヒー淹れて飲んでみました味は変わらず？だったので夕飯の焼きそばにも使いましたが皆さん体調に変化は有りませんでした！（色さえ気にしなければ活用できるかも？）

小屋は未だ新しく綺麗でマットレスも準備されていて快適に過ごせる状態でした小屋の周りにはウメバチソウが密集していたので満開になればさぞ綺麗だろうなーと思いました。早めの就寝だったので皆さん目覚めが早く2階の窓から雲海に浮かぶ栗駒山そこに登る真赤な日の出を見る事が出来ました。

5時過ぎに小屋を出発し途中何度か食事休憩をとり昨日登ったコースを順調に沢まで下り休憩後一気に駐車場まで歩きました、途中の藪の中にはエゾニユウなど熊の好物があり熊が餌場とした様な痕跡が何か所も有ったので気持ちが悪かったです、昨日駐車場手前で子熊を目撃していたので！ スバ鬼首で4人と合流し好間工業団地駐車場に15時無事到着となりました。

（文責：根本）

コースタイム

23日（晴れ） 駐車場7：40～渡渉点9：10～夫婦桧10：30～高松岳分岐11：30～
避難小屋12：40

24日（晴れ） 避難小屋5：20～分岐6：00～渡渉点7：30～駐車場8：40

